

ISSN 0288-139X

---

# 水草研究会会報

---

70号(2000年7月)



Bulletin of Water Plant Society, Japan

No. 70 (July 2000)

水草研究会

— 目 次 —

静岡県立静岡高等学校生物部  
：安倍川下流域（静岡市）のミクリ類 ..... 1

笹原 治：新潟県松浜の池に生育するオニバス .....15

藤井 伸二・栗林 実  
：琵琶湖におけるヤナギトラノオの分布 .....17

茨木 靖：西表島固有イネ科水生植物イリオモテガヤ  
（*Chikusichloa brachyathera* Ohwi）の生育環境 .....20

下田 路子：パイン・バレン（ニュージャージー州）の湿地 .....22

水草研究会第22回全国集会.....34；水草関連文献リスト .....35；他

〔表紙写真〕オオカワヂシャ（兵庫県神戸市西区 1999年 5月 9日）

オオカワヂシャの存在が認知されるようになったのは、本誌52号（1994年）に掲載された田中俊男・野口順子両氏の報告がきっかけであろう。この和名自体は平凡社の『日本の野生植物Ⅲ』にも登場するが、「ときに帰化している」という程度の扱いで、ほとんどその正体が理解されていなかった。実はその現実は今も同様で、最近出版された写真図鑑などにはオオカワヂシャの写真が「カワヂシャ」として載っている例が少なくない。田中・野口（1994）の時点で「近年、京阪神地域の都市部やその周辺の河川の水際などに、…、多数群生しているのを見かける」とされたが、その後も急速に分布を拡大しているようだ。私の住む神戸市西部でも、ここ2、3年、いたるところに大きな群落を見かけるようになった。改修直後の河川で優占種になるなど環境の攪乱にも強い。農業用水路では繁茂しすぎて除草の対象になっている。都市近郊にかぎらず河川の上流部にも進出中である。

しかし、全国どこにでも広がっているというわけではなさそうだ。「まだ見かけませんが…」、という話を聞くこともある。現在、どこまで分布しているのか、そしてこれからどのように分布を広げていくのか、今から資料を集めればおそらく全国的な分布拡大の過程とその背景の詳細な追跡が可能な事例ではなからうか。小さな白色に近い花をつけるカワヂシャに対し、オオイヌノフグリの花を思わせる青紫色の花を咲かせるオオカワヂシャの区別はそれほど難しくはない（ただし雑種があるので要注意）。

花の観察は来年の春までお預けだが、秋になると特徴的な姿で現れるので、ぜひご注意いただきたい。  
（写真と文：角 野 康 郎）